

端午の節句について



菖蒲（しょうぶ）の花

たんご せっく
端午の節句は「子どもの日」

端午の節句は、奈良時代から行われている行事のこと。もともとは病気や災い（悪いもの）をさけるための行事だったそうです。

その行事のために使っていた「菖蒲（しょうぶ）」が武士の言葉や道具に似ていることから、だんだんと男の子の行事になっていきました。

1948年に5月5日を「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」お休みの日と決められてから、端午の節句を子どもの日と呼ぶようになったそうです。
子どものお祝いだけでなく「お母さんに感謝する」という意味もあったのですね！

こい
鯉のぼり

「鯉」というお魚は、強くて流れが速くて強い川でも元気に泳ぎ、滝をものぼってしまう魚。そんなたくましい鯉のように、子どもたちが元気に大きくなることを願う意味が込められているそうです！

身近にある木材製品
も探してみてくださいね ♪

